

人びとの暮らしを支え、
社会のつながりや変化をうみだすしごと

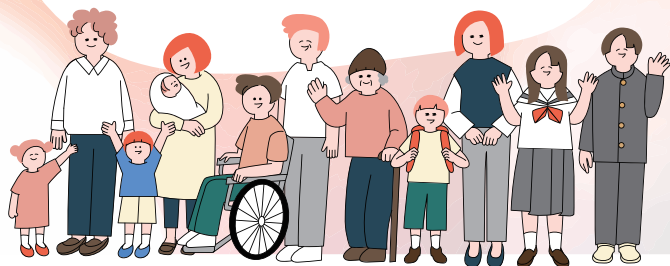
3人に共通するのは、「本人の思いを大切にする」
姿勢です。

福祉の現場は、日々の小さな工夫や一歩が、誰か
の暮らしを大きく変えます。

山野さんは「人の人生に関わる大切な仕事。たい
へんな面もあるが、やりがいを感じやすい」、佐藤さ
んは「福祉の仕事は無理なく続けられ、ソーシャル
ワークはすぐに結果は出ないが、自分自身も大きく
成長できる」、上仲さんは「子どもたちの成長や良い
変化を近くで感じられる」ことが魅力だと話します。

誰もがその人らしく生きることができるために
すべての人の暮らしの場がより豊かになるように
人と人、人と場所、人と社会とのつながりや変化
をうみだすしごと。

あなたの一歩が、誰かの笑顔をうみだします。



「子どものしあわせ」を引き出す



うえ なか しゅうへい
上仲 翔平さん
児童養護施設・
児童指導員
社会福祉法人高津学園

3年前に入職し、小学生を中心に日常生活を支援し
ています。もともとは中学校教員を志望してしまっ
たが、大学で児童福祉にふれ「子どもたちの側で成長を
見守りたい」と思い、この道へ。

入職当初、子どもたちと接する中で、「これできへんか
ら」といった言葉が多く、自己肯定感の低さに大きな衝
撃を受けました。そこで、小さな成功体験を積み、自信
を育める関わりを心がけています。自身の経験を生か
したフットサル指導では交流大会で優勝し、子どもたち
が誇らしげに報告する姿にやりがいを感じました。

自身の学生時代を振り返り、「自分の“好き”を大切
にしてほしい。他人の意見に流されず、やりたいことを
大事にして、自分の道を選んでほしい」と、子どもたち
に願っています。

寄り添うチカラで、 人生を支える

人びとの暮らしに寄り添う 3人のソーシャルワーカー

病気や障がい、家庭環境の変化など、暮らしの中には誰
かの支えが必要になる瞬間があります。そんな時に寄り
添い、一歩踏み出すお手伝いをするのが福祉の仕事です。

福祉の仕事には、介護を必要とする方への直接的なケ
アを行う職種だけではなく、相談支援や関係機関と連携
し、その人らしい暮らしを支える「ソーシャルワーク」に携
わる職種があります。今回は、大阪で活躍する3人のソー
シャルワーカーに、その思いを聞きました。



行って、見て、聞いて状況を把握



相談室でじっくり傾聴



子どもといっしょに歩む

ソーシャルワーカーとは

何らかの生活課題や困難な状
況を抱える方に対する支援や、
関係機関とともに、地域のあり
方や社会環境の改善も視野に入
れた働きかけを行う福祉の専門
職です。

「その人らしい生活」を支える



さとう けんじ
佐藤 健司さん
相談支援センター・
相談支援専門員
社会福祉法人英芳会

障がいのある方が自分らしく暮らせるよう、必要な
サービスにつなぐ相談支援を担当。

重度身体障がいのある利用者が希望するグループ
ホームに移るまで、条件に合う住まいを1年以上かけて
一緒に探し続けました。車いすが通れる動線の確保
など生活条件を満たし、入居後には「今の生活になっ
てよかった」と喜ばれました。その後、グループホーム
側が設備を改修し、より快適に暮らせるようになった
といいます。障がいのある方には社会や環境を変える
力があることを実感した出来事でした。

異業種からの転職でしたが、障がい特性に配慮して
話し方を変えるなど、相手の立場に立って考える大切
さを学び、人としての成長を実感しています。

「望む暮らし」を叶える



やまの あい
山野 愛さん
地域包括支援センター・
社会福祉士
社会福祉法人
四天王寺福祉事業団

特別養護老人ホームで介護職として経験を積んだ
後、令和5年から現職に。高齢者やその家族からの介
護保険サービスや認知症に関する相談に応じ、自立を
支える支援プランを作ります。

例えば股関節の手術後に「趣味のゴルフを再開した
い」という方には、リハビリや住環境整備を提案。歩行
や運転が可能になり、希望を実現できました。

大学時代には社会福祉士と精神保健福祉士の国家
試験合格を目指し、授業や実習、卒論に加えて就職活
動にも励みました。夜遅くまで友人と学校に残って勉
強した経験が、「努力は必ず力になる」という自信に。
今も先輩や関係機関の方から学び続ける姿勢を大切
にしています。

Information!!



ふくしおおさかの
バックナンバーはこちら



©TOMONORI TANIGUCHI 2018

この絵は、さまざまな“ちがいが”をもつ人びとが、
互いに認めあえる共生社会をイメージしています。

ふくしおおさか特別号はルビ版や点字
版も作成し、府内の全高校生に年1回
配布しています。(23万7千部発行)
社会福祉法人 大阪府社会福祉協
会では、「でかける・つなが・つくる」
を合言葉に福祉と共生のまちづくりを
めざし、福祉の魅力を発信していきます。

赤い羽根共同募金は、昭和22
年に「国民たすけあい運動」とし
てスタートし、今年、79回目を
迎えます。今年度の大阪府の共
同募金目標額は、歳末たすけあ
い募金を含めて7億3千万円。
社会福祉施設の整備、ボランテ
ィア団体等の活動支援、ヤングケ
アラへの支援や子ども食堂など地
域での居場所づくりへの支援等、
身近な町の地域福祉事業を支え
る大切な資金となります。

また、地震や水害など、大規
模災害発生時には、災害ボラン
ティアセンターの設置・運営にも
活用されています。

共同募金は、各ご家庭でのこ
協力や、街頭募金、学校募金、
地域のイベントでの募金、インタ
ーネット寄付など、誰もがいつで
も

どこでも身近に取り組める「支え
る人を支えるボランティア活動」
です。ぜひとも多くのみなさまの
ご参加・ご協力をよろしくお願い
いたします。



令和7年7月24日(木) 大阪・関西万博内
フューチャーライフヴィレッジにて



大阪・関西万博2025 TEAM EXPO 2025
共創チャレンジ ちょこっとボラ活ははじめませんか?

募金運動について、詳しくは、
大阪府共同募金会ホームページをご覧ください。
<https://akaihane-osaka.or.jp>

赤い羽根おおさか



スマホからも
寄付できます

支える人を支えるボランティア
赤い羽根共同募金運動

全国一斉
10月1日
スタート!